

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371301165		
法人名	社会福祉法人 愛生福祉会		
事業所名	グループホーム集い 1F		
所在地	名古屋市瀬古3丁目830番地		
自己評価作成日	令和2年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvou_detail_Q22_kani=true&JigyosyoCd=2371301165-00&ServiceCd=3
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5号
訪問日	令和3年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者一人ひとりの意思とご家族の気持ちに寄り添い「その人がその人らしい生活を送ることができるようお願い、支えさせていただき」思いで、利用者主体の生活を支援させていただきます。また、季節感を常に感じていただくことができる行事や食事、個別の外出や生活の中の活動などを行わせていただき、個々に感じられる「楽しみを追求」しながら想いに応えられる施設づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム集いは、地域密着型デイサービスを併設した2ユニットの事業所である。入居者それぞれ個性を尊重し、出来る事や得意な事を見逃さず、暮らし中で役割として継続できるよう支援している。コロナ禍で様々な制限がある中、「施設内で楽しみが欲しい」という入居者の声に耳を傾け、思いを共有し、応えられるよう人員の配置配分を変更する等工夫をし、レクリエーションの充実を図っている。また、母体である社会福祉法人愛生福祉会は多種多様な事業を展開している為、職員の研修や資格取得支援だけでなく、ジョブチャレンジ投票箱を事業所に置き、直接法人幹部へ意見提案や希望を言い表す機会があり、職員からも職場環境が良いという声もある。今後更に、社会福祉法人として、地域貢献を含めた活動の広がりが楽しみな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業計画に基づき、職員会議などを通じてサービスの振り返りを行いながら、利用者、施設の状況やニーズを共有して取り組んでいる。	毎朝、法人理念と5つの誓いを唱和している。朝唱和する事によって、仕事に対して取り組む姿勢が変わると職員からの声もある。また、理念の唱和を始めてから離職率が5%下がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年度はコロナ禍において施設行事の中止やボランティアの受け入れを中止している状況にある。しかし、利用者が近隣を散歩することや地域の居宅等への訪問などを行い、事業所としての活動をPRしている。	自治会に加入しており、町内の情報は回覧板等で収集している。コロナ禍で、町内の行事が無い中、職員が毎朝、事業所周辺の清掃を行い、近隣住民との関係継続に努めている。コロナ禍前は地域の方にチラシを配り、事業所で開催する「集い祭り」に招待していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はコロナ禍において施設から開催する勉強会などを中止しているが、困りごとや相談などはいつでも伺えるように対応しているが十分行えてはいない状況にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議自体の開催は書面での会議となっている。ご家族や参加者からの意見を頂戴する中でサービスに反映できるように取り組んでいる。	今年度は書面による会議を6回開催した。メンバーである入居者、入居者家族、自治会長、いきいき支援センター担当者等には運営状況の報告と意見照会を行っている。感染予防についての注意喚起等が意見として上げられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村や周辺のリハビリ病院(病院)のワーカーなどを通じ、施設からの情報の発信と入居に関する相談に協力できるように取り組んでいる。	生活保護受給対象の入居者もいる為、日頃より守山区の保護系のケースワーカーとの連携を図っている。また、職員は名古屋市のオンライン研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議では身体拘束に関する勉強会を行い施設内で共有し、玄関やリビングその他必要最低限の場所以外には施錠はしないように徹底している。また、利用者の身体拘束は現在行われていない状況にあり、今後も継続していく。	ベッドからのすり落ちがあれば、畳に布団で対応する、窓からのエスケープがあれば、24時間シートを活用し、どの時間帯が不穏になりやすいかを観察・記録する等、個々の事例検討を行い、身体拘束にならないケアに取り組んでいる。年4回以上身体拘束に関する勉強会を開催し、職員にスピーチロックを含め、周知徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する勉強会と事例と報告書に基づき、施設内で勉強会を行い虐待防止に関して徹底した取り組みを行うように進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が定期的に行っている状況ではないが、入居前や入居中でもご提案ができるようにご家族には説明と対応をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、退居に関する説明は家族または身元保証人に説明を行い、不明な点などの確認を行いながら契約と退去手続きを行っている。また、退居に関しては他施設等への提案と見学や説明などフォローを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際や連絡等でまめにご家族から意見を頂戴し、改善や取り組みがあった際にはお伝えをしている。	毎月のお便り、意見箱の設置あり。コロナ禍で面会制限がある中、家族からの意見でスマホやビデオ通話での面会を実施。また入居者から、外に出られない分施設内で楽しみが欲しいとの意見を受け、会議で話し合いレクリエーションの時間の確保を図った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や職員との面談を行いながら運営に関しての話し合いや業務改善、ケアの方法の提案などを含めて行っている。	日頃より職員から直接管理者に意見を言いやすい関係が出来ている。また、リーダーが各職員から課題を事前に吸い上げ、月1回の会議で議題に上げて業務改善に繋げている。その他、年2回の個人面談を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、フロアごと・個人個人の目標を設定して向上心を持って勤務できるように努めている。また、職員の把握を行いながら人員の補充などを行い、業務改善を行うようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修の参加を行う以外に、管理者がラウンドを行う中で移乗・排泄・口腔ケアなど個々の状況の確認と指導を適宜行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度もコロナ禍において、外部との直接的な交流を控えており参加できていない状況にあるが、ネット等を活用した情報交換や研修等への参加を考えたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接や調査時に利用中の事業所があれば利用中の様子、要望なども含め確認をさせていただき、入居から安心して過ごしていただくことができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にはご家族との関係や家族としての考えなどを伺い、サービスに反映できるように努めている。また、ご不明な点や心配されていることなどを伺い、施設へのご要望や相談がしやすいように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の段階で必要なことなどを検討し、入居後は本人、ご家族が不安になることのないように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活を尊重できるように生活リズムや必要としている介助内容などを把握し、職員間で申し送りや記録などから情報を共有し、本人の立場になって考えられるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後、ご家族への連絡を行いながら、入居された後の様子を電話連絡などを通してお伝えし、安心していただくことができるように関係の構築を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会やお知合いの方などの面接も可能とし、今までの人間関係が継続できるように努めている。また、居室についてはペットや宗教活動の持ち込みはご遠慮いただいているが、家具や馴染みのあるものなどを置いていただくことを可能としている。	リモート面会の他、家族・友人へ年賀状や手紙、電話の取次ぎ支援を行い今までの関係の継続支援を行っている。コロナ禍以前は馴染みの商店街へ買い物に出掛けたり、年末年始は家族と自宅で過ごせるよう支援していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係づくりがスムーズにできるよう、入居前のフロアの設定を検討したり、入居後も職員が間に入りながら、過ごしやすい環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご相談についてはいつでもできる旨をお伝えしたり、必要な際はご連絡をさせていただき形で支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む生活については話を伺うことやご家族の話、入居前の事業所からの情報などで汲み取りをしている。	入居時の聞き取りの際、本人・家族から暮らし方の意向をアセスメントしている。また、誕生月にはどんな事がしたいか聞き取り、職員間で実現に向けて話し合い希望が叶えられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の望む生活については話を伺うことやご家族の話、入居前の事業所からの情報などで汲み取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の望む生活については話を伺うことやご家族の話、入居前の事業所からの情報をいただき、現状の把握を行い、共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族(本人)の確認をいただきながらケアプランの作成に努めている。現在、ボランティアの受け入れは中止している。	シルバーカーを使って歩きたい等、本人の希望や一人ひとりの役割を目標にし、計画作成がされている。計画の見直し、モニタリングは居室担当職員の意見、家族の意見を事前に聴取し計画作成者が半年に1回実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は個々に管理を行いながらケアの内容が繋がっていくことができるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームだけではなくマッサージや理美容などその方のニーズに応じてたサービスを利用することを検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用があまり行えず、施設内でほぼ完結しようとしている点で本人の暮らしに着目したサービスを提供できるよう課題がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院をベースとしながら、本人・家族のニーズに応じて他の医療機関なども含め、ご提案をしながら医療を受けていただくことができるように配慮して支援している	フロア毎に隔週で協力医による往診がある。もともとのかかりつけ医や他科への受診は家族支援のもと継続している。職員に看護師がいるため、日常の健康管理の他24時間オンコール対応が可能である。また、月2回の歯科の往診があり、口腔ケアについて職員が歯科医より指導を受け、入居者の日常の口腔ケアに役立っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤帯を主として看護師の配置を行い、夜間帯においてもコール対応ができる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者について病院の連携室(MSW)と入院状況の確認を行いながら、情報の共有を行い、退院または退所の場合を想定しながら施設の方針をお伝えしながら対応を検討し、進めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態悪化の前段階から施設の生活状況や身体の状態を家族にお伝えし、終末期も受け入れの継続を検討している。また、協力病院の先生に相談し、情報共有する中で本人の援助方法を検討している。	入居の際には、重度化に関する指針について説明し、同意を得ている。また、入居者の状態の変化に応じて、意向の確認を行っている。医師、家族、各職員が方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。家族が看取る事ができるよう、宿泊用の簡易ベッドを用意する等の支援も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応については定期的な訓練が十分に行えていなかった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施し、避難経路・避難誘導方法を確認し行っている。	年2回夜間想定も含めた避難訓練を実施している。また、備蓄として3日以上の水と食料の他、カセットコンロ、毛布等の備えがある。	実際の避難時を想定し、近隣との協力体制の構築が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の対応に注意し、声掛けケアの方法をフロア内で確認し、尊厳を守るように努めている。	入職時の研修の他、年2回の人事考課の面談時に、普段の接遇について振り返りを行っている。排泄チェックはタブレットでチェックし、ミーティング時には部屋番号を使用する等、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケース担当者が主となりながら本人が過ごされるフロア担当で希望や思いを伺い共有しながら、意に添うことができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が提案しながら利用者が選択していく傾向にあるが、利用者に合わせてペースで過ごしていただくことができるように支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みのあるものや好みに合わせたものを中心にご家族の協力も得ながら、衣類を選んで頂くようにしている。職員やご家族が好みを伺ったり、欲しい衣類などを確認しながら用意をさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作成する段階から、利用者からの希望などを伺い反映している。食事準備や片づけなどできる利用者をお願いしながら、一緒に行うように努めている。	担当の職員が、入居者の好みや希望を取り入れながら献立を決めている。普段の食事に敷地内の畑で、入居者と共に栽培した野菜を、味噌汁や漬物にして献立に加えている。また、敬老会、誕生日、クリスマスには特別食を入居者参加で調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎食記入を行い、変化の確認を個々に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き等の働きかけと、1日1回以上は職員が付き添いまたは介助にて口腔ケアを行っている。 月に1回歯科衛生士のケアを入れており、口腔内様子を確認し、助言をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄チェック表を記入し、リズムの確認、声掛け(または介助)を行いながらトイレでの排泄や失敗のない対応を行うよう努めている。また、トイレに座っていただく機会を作るよう私選している。	一人ひとりの排泄のアセスメントを行い、歩行の訓練や座位保持の訓練等、身体の状態に合わせて排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、日常に体操を取り入れたり、オリゴ糖や乳酸菌飲料を提供し、できるだけ薬に頼らない自然排便を促すよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用率を減らすため、水分摂取の促し、野菜等を献立に取り入れることや施設内外の散歩など運動する機会を作りながら自然排便ができるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の出勤状況によっては入浴予定の調整をすることもあるが、基本的には本人の好まれる時間帯や入浴剤などの工夫をしながらゆっくりと入っていただけるように努めている。	週2回から4回、時間帯や回数も個々の希望に合わせて入浴している。2階にはリフト浴があるため、身体の状態に合わせた入浴が可能である。入浴後にはスポーツドリンクで水分補給をしている。また、個々に自分の好みのボディローションを使用し、保湿ケアを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や就寝時間は本人の体調やこれまでの生活に合わせて休んでいただくよう努めている。また、布団など好みもあるので場合によっては使われていた物などをご家族に協力いただきながら用意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日、職員が薬情報の確認し薬のセットミスが無いよう確認し、説明の把握を行う機会を設け理解できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前や入居後、生活の中での会話を通じ本人の生活歴、好みや苦手なことなどを伺い、生活の中で取り入れていくことができるように職員間で共有し、支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援してい	今年度も希望通りに外出など行うことが困難な状態にある。散歩や庭でできる活動などを行うように努めている。	日常的には公園への散歩や畑の世話をしたり、2階の広いベランダで体操やティータイムを過ごしている。コロナ禍で外出が減ってしまった分レクリエーションを充実し気分転換できるよう工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で個人個人使われていた財布をお預かりし、外出や買い物、確認したい時などいつでもお渡しできるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	個人の携帯電話が使われたり、無い方には施設の電話を使用していただき、いつでも連絡ができるようにしている。また、友人や家族に手紙を書きたい方も自由にできるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の季節に合わせた飾りつけは利用者と職員が話をしながら作成したり、飾り付けを一緒に行っている。 日常生活で不快になるような音・声明さなどに配慮した対応をしている。	玄関フロアにはコロナ感染予防対策として、消毒とサーモグラフィを設置している。フロア入口には、その日の出勤職員が分かるよう名前と顔写真の掲示がある。リビング壁には入居者の作品や行事の写真が飾られ日常の様子が窺える。食後にベランダに出たり、ソファに座ってテレビを見て過ごす等入居者は自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で居室以外にベランダや庭のスペースにベンチを置いたり、相談室やソファ、畳コーナーを設けて、各々が過ごせる場所の確保をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の面会やお知合いの方などの面接も可能とし、今までの人間関係が継続できるように努めている。また、居室についてはペットや宗教活動の持ち込みはご遠慮いただいているが、家具や馴染みのあるものなどを置いていただくことを可能としている。	1階2階とも全室南向きで日当たりが良い。ベッド、タンス、エアコンは備え付けで、その他は自由なので、テレビや小型冷蔵庫、カフェテーブルとイス等入居者の好みに合わせて配置している。また、家族の写真や趣味の道具等を置き、その方の安心に繋がる部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備は完全ではないが、場所がわかりやすいように努める以外に手すりや個人個人に必要な杖、歩行器などを使っていたくことができるように努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371301165		
法人名	社会福祉法人 愛生福祉会		
事業所名	グループホーム集い 2F		
所在地	名古屋市瀬古3丁目830番地		
自己評価作成日	令和2年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhvou_detail_Q22_kani=true&JigyosyoCd=2371301165-00&ServiceCd=3
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5号
外部評価調査日	令和3年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者一人ひとりの意思とご家族の気持ちに寄り添い「その人がその人らしい生活を送ることができるようお願い、支えさせていただき」思いで、利用者主体の生活を支援させていただきます。また、季節感を常に感じていただくことができる行事や食事、個別の外出や生活の中の活動などを行わせていただき、個々に感じられる「楽しみを追求」しながら想いに応えられる施設づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業計画に基づき、職員会議などを通じてサービスの振り返りを行いながら、利用者、施設の状況やニーズを共有して取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も施設行事の中止やボランティアの受け入れを中止している状況にある。しかし、利用者が近隣を散歩することや地域の居宅等への訪問などを行い施設内の見学などは可能としている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設から開催する勉強会などを中止しているが、困りごとや相談などはいつでも伺えるように対応しているが十分行えてはいない状況にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議自体の開催は書面での会議となっているが、ご家族や参加者からの意見を頂戴する中でサービスに反映できるように取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村や周辺のリハビリ病院(病院)のワーカーなどを通じ、施設からの情報の発信と入居に関する相談に協力できるように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束に関する勉強会を開催し、職員間で共有し、玄関やリビングその他必要最低限の場所以外には施錠はしないように徹底している。また、利用者の身体拘束は現在行われていない状況にあり、今後も継続していく。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する勉強会と事例と報告書に基づき、施設内で勉強会を行い虐待防止に関して徹底した取り組みを行うように進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が定期的に行っている状況ではないが、入居前や入居中でもご提案ができるようにご家族には説明と対応をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、退居に関する説明は家族または身元保証人に説明を行い、不明な点などの確認を行いながら契約と退去手続きを行っている。また、退居に関しては他施設等への提案と見学や説明などフォローを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員会議での情報の共有を行い、運営推進会議でお伝えし、ご意見をいただくようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や職員との面談を行いながら運営に関しての話し合いや業務改善、ケアの方法の提案などを含めて行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、フロアごと・個人個人の目標を設定して向上心を持って勤務できるように努めている。また、職員の把握を行いながら人員の補充などを行い、業務改善を行うようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受けられる機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修の参加を行う以外に、管理者がラウンドを行う中で移乗・排泄・口腔ケアなど個々の状況の確認と指導を適宜行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との直接的な交流を控えており参加できていない状況にあるが、ネット等を活用した情報交換や研修等への参加を考えたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接や調査時に利用中の事業所があれば利用中の様子、要望なども含め確認をさせていただき、入居から安心して過ごしていただくことができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にはご家族との関係や家族としての考えなどを伺い、サービスに反映できるように努めている。また、ご不明な点や心配されていることなどを伺い、施設へのご要望や相談がしやすいように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の段階で必要なことなどを検討し、導入時に本人、ご家族が不安になることのないように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活を尊重できるように生活リズムや必要としている介助内容などを把握し、職員間で申し送りや記録などから情報を共有し、本人の立場になって考えられるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後、ご家族への連絡を行いながら、入居された後の様子を電話連絡などを通してお伝えし、安心していただくことができるように関係の構築を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外に友人からの連絡なども受け入れ、場合によっては家族以外の面会も可能としている。また、友人から昔の話などを伺うことでコミュニケーションの幅を持たせている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係づくりがスムーズにできるよう、入居前のフロアの設定を検討したり、入居後も職員が間に入りながら、過ごしやすい環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご相談についてはいつでもできる旨をお伝えしたり、必要な際はご連絡をさせていただく形で支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む生活については話を伺うことやご家族の話、入居前の事業所からの情報などで汲み取りをしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の望む生活については話を伺うことやご家族の話、入居前の事業所からの情報などで汲み取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の望む生活については話を伺うことやご家族の話、入居前の事業所からの情報をいただき、現状の把握を行い、共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成とご家族(本人)の確認をいただきながらケアプランの作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は個々に管理を行いながらケアの内容が繋がっていくことができるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームだけではなくマッサージや理美容などその方のニーズに応じてたサービスを利用することを検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用があまり行えず、施設内でほぼ完結しようとしている点で本人の暮らしに着目したサービスを提供できるよう課題がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院をベースとしながら、本人・家族のニーズに応じて他の医療機関なども含め、ご提案をしながら医療を受けていただくことができるように配慮して支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤帯を主として看護師の配置を行い、夜間帯においてもコール対応ができる体制を整えている。症状や状態に応じて看護師の付き添いにて医療機関で診察を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者については病院の連携室(MSW)と入院状況の確認を行いながら、退院または退所の場合も想定しながら施設の方針をお伝えしながら対応を検討し、進めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化されている状況の前段階から施設の生活状況や身体の状態をお伝えし、終末期も受け入れの継続をご家族と検討している。また、協力病院の先生にも相談をし情報共有する中で本人の援助方法を検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応については定期的な訓練が十分に行えていなかった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施し、避難経路・避難誘導方法を確認し行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の対応に注意し、声掛けケアの方法をフロア内で確認し、尊厳を守るように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケース担当者が主となりながら本人が過ごされるフロア担当で希望や思いを伺い共有しながら、意に添うことができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が提案しながら利用者が選択していく傾向にあるが、利用者に合わせたペースで過ごしていただくことができるように支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は馴染みのあるものを中心にご家族の協力も得ながら、衣類を選んで頂くようにしている。本人と買い物が必要な場合は職員やご家族が好みを伺ったり、欲しい衣類などを確認しながら用意をさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作成する段階から、利用者からの希望などを伺い反映している。食事準備や片づけなどできる利用者にお申しながら、一緒に行うように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎食記入を行い、変化の確認を個々に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き等の働きかけと、1日1回以上は職員が付き添いまたは介助にて口腔ケアを行っている。 月に1回歯科衛生士のケアを入れており、口腔内様子を確認し、助言をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、リズムの確認、声掛け(または介助)を行いながらトイレでの排泄や失敗のない対応を行うよう努めている。おむつ使用者もトイレに座っていただく機会を作るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用率を減らすため、水分摂取の促し、野菜等を献立に取り入れることや施設内外の散歩など運動する機会を作りながら自然排便ができるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の出勤状況によっては入浴予定の調整をすることもあるが、基本的には本人の好まれる時間帯や入浴剤などの工夫をしながらゆっくりと入っていただけるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のお昼寝や就寝時間は本人の体調や今までの生活に合わせて休んでいただくよう努めている。また、布団など好みもあるので場合によっては使われていた物などをご家族に協力いただきながら用意していただくこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日、職員が薬情報の確認し薬のセットミスが無いよう確認し、説明の把握を行う機会を設け理解できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前や入居後、生活の中での会話を通じ本人の生活歴、好みや苦手なことなどを伺い、生活の中で取り入れていくことができるように職員間で共有し、支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	4月以降コロナ禍においては希望通りに外出など行うことが困難な状態にある。3月までは花見、買い物、日帰り旅行など利用者の声を生かしながら外出や催し物などを企画し、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で個人個人使われていた財布をお預かりし、外出や買い物、確認したい時などいつでもお渡しできるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯電話を使われたり、無い方には施設の電話を使用していただき、いつでも連絡ができるようにしている。また、友人や家族に手紙を書きたい方も自由にできるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の季節に合わせた飾りつけは利用者と職員が話をしながら作成したり、飾り付けを一緒に行っている。 日常生活で不快になるような音・声明るさなどに配慮した対応をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で居室以外にベランダや庭のスペースにベンチを置いたり、相談室やソファ、畳コーナーを設けて、各々が過ごせる場所の確保をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の面会やお知合いの方などの面接も可能とし、今までの人間関係が継続できるように努めている。また、居室についてはペットや宗教活動の持ち込みはご遠慮いただいているが、家具や馴染みのあるものなどを置いていただくことを可能としている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備は完全ではないが、場所がわかりやすいように努める以外に手すりや個人個人に必要な杖、歩行器などを使っていただくことができるように努めている。		